

前校長、休職の教諭と面会

大川小 市教委も知らず

東日本大震災で、石巻市の大川小学校の児童と教職員計84人が死亡・行方不明になった惨事について、市教委による児童遺族への説明会が28日、市内で行われた。柏葉照幸・前校長が、校内にいた教職員でただ一人助かり、いまは病気休職中の男性教諭に、昨年11月に直接会ったことを初めて明らかにした。

市教委はこれまで、教諭は病気のため証言は難しいと説明。前校長は教諭との面会を市教委にも報告しておらず、遺族からは「われわれにも知らせるべきだった」と批判の声が出た。

この教諭は昨年4月の保護者に対する1回目の説明会に出席し、津波が来たとき山の方へ逃れて助かったなどと、被災当時の模様を語ったが、2回目からは出席していない。その後、証言と事実関係との食い違いが明らかになり、遺族らは避難が遅れた原因の究明に重要だとして、再度の証言を求めてきた経緯がある。

前校長によると、昨年11月、教諭の自宅近くに行っていた際に電話をかけ、路上で会ったという。「質問できる状態ではなかった」ため、会話した時間は「1分

ぐらい」と説明。それ以外に、電話やメールでも連絡をとっていたという。「本人の状態がよくないので、私の判断で報告しなかった」と述べた。

市教委の尖戸健悦副参事は「私は知らなかった。『キーパーソン』であり、われわれも遺族も話を聞きたいとの認識だったので、驚いている」という。次女を亡くした佐藤かつらさん(47)は「教諭には一日も早く口を開いていただきたいのが遺族の願い」と語った。(川端俊一、小野智美)

2012年 10月29日(月)
朝日新聞